

産業業種別に見たメタボリスクの保有状況（協会けんぽ福島支部データから）

— 5 報 —

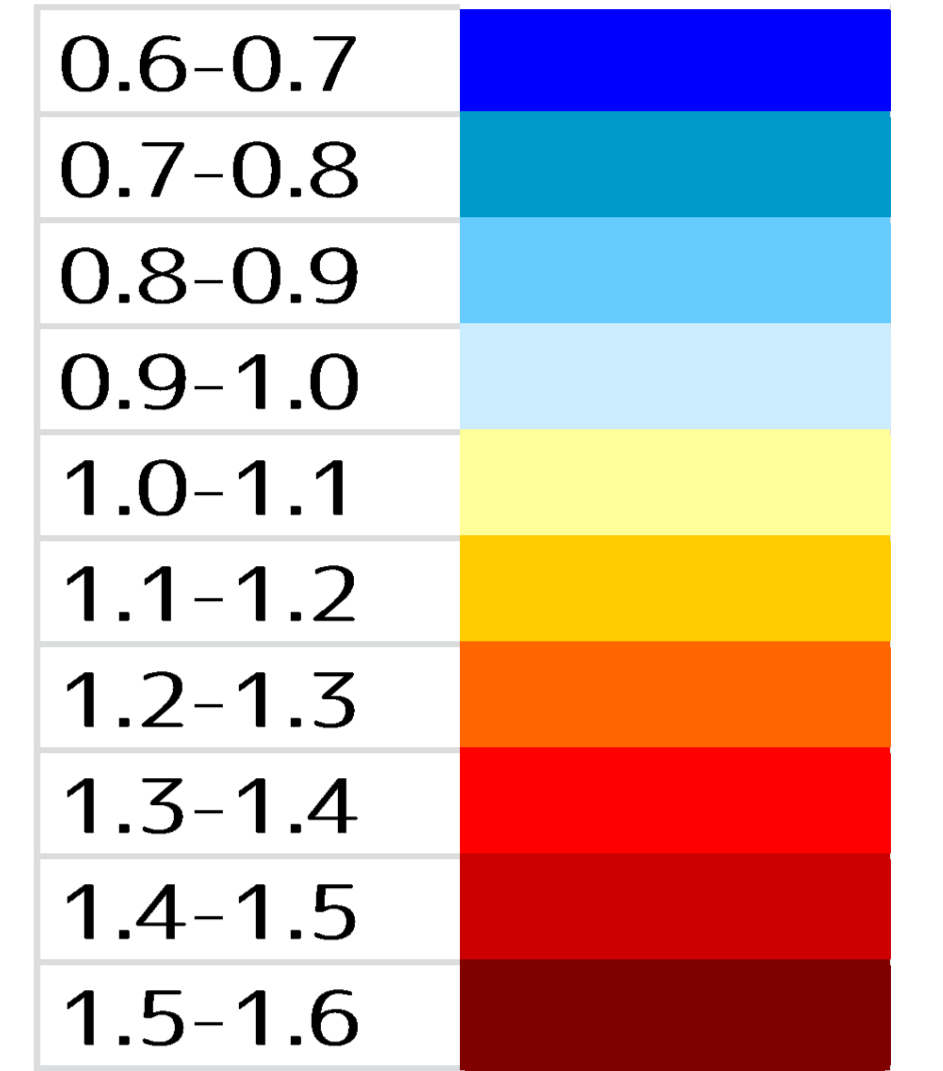
日高友郎¹⁾・早川岳人¹⁾・辻雅善¹⁾・各務竹康¹⁾
熊谷智広¹⁾・蛭田悠平²⁾・畑淳子²⁾・福島哲仁¹⁾



1) 福島県立医科大学 衛生学・予防医学講座
2) 全国健康保険協会 福島支部

thidaka@fmu.ac.jp

カラースケールの凡例



1. 目的

地域における産業業種別の健康問題の特徴を把握することは重要課題。

しかし、就業している産業別に、地域における人々の健康状態を検討した研究は少ない。

全国健康保険協会（協会けんぽ）福島支部のデータベースをもとに、福島県における産業と健康問題との関連を明らかにする。

2. 方法

対象者：

平成24年度に協会けんぽ福島支部の健診を受けた130,344名

分析：

- 性別
- 年齢階級（44歳以下、45-54歳、55-64歳、65歳以上）
- 日本標準産業分類に基づく産業（18項目）
- 健康リスク（腹囲、血圧、代謝、脂質、メタボリック）
- 年齢調整（間接法；協会けんぽ全支部を基準人口とした）
- 標準化リスク比（SRR）
- SRRの95%信頼区間

3. 結果

95%信頼区間を算出し、統計的に有意なものについて、カラースケールを用いて産業業種別のSRRを表記した。

男性

産業	リスク				
	腹囲	血圧	代謝	脂質	メタボリック
農林、林業；漁業					
鉱業、採石業 砂利採取業		1.28			
建設業	1.08	1.17	1.07	1.12	1.22
製造業	0.94	1.17	0.91	0.97	
電気・ガス・熱供給・水道業	1.23	1.13	1.18		1.31
情報通信業	1.22			1.29	1.27
運輸業、郵便業	1.20	1.27	1.15	1.15	1.41
卸売業、小売業	1.06	1.12	1.08	1.05	1.16
金融業、保険業	1.20	1.13		1.16	1.29
不動産業、物品賃貸業		1.12		1.14	1.20
学術研究 専門技術サービス業	1.18	1.11		1.24	1.35
宿泊業 飲食サービス業		1.09			
対個人サービス業 娯楽業		1.09			1.11
教育・学習支援業				1.26	1.24
医療業・保健衛生 社会保険・社会福祉 介護事業		1.22	1.14	1.05	1.15
複合サービス事業	1.18	1.21	1.23	1.24	1.44
サービス業 (その他)	1.03	1.13	1.07	1.05	1.13
公務		1.19			

女性

産業	リスク				
	腹囲	血圧	代謝	脂質	メタボリック
農林、林業；漁業		1.19			
鉱業、採石業 砂利採取業					
建設業		1.13		1.20	
製造業		1.33	1.08	1.12	1.16
電気・ガス・熱供給・水道業					
情報通信業					
運輸業、郵便業		1.29		1.30	
卸売業、小売業		1.26		1.10	
金融業、保険業					1.56
不動産業、物品賃貸業			0.60		
学術研究 専門技術サービス業					1.21
宿泊業 飲食サービス業		1.18			
対個人サービス業 娯楽業		1.23		1.17	
教育・学習支援業					
医療業・保健衛生 社会保険・社会福祉 介護事業	1.18	1.24	1.24	1.26	1.43
複合サービス事業	1.20	1.28	1.22	1.42	1.56
サービス業 (その他)		1.17	1.17	1.10	
公務		1.19			

- 男性は女性よりも多種の健康リスクを保有；血圧リスクは性別・産業を通じてリスク比が高い；「建設業、運輸業・郵便業、卸売業・小売業の男性」、および「医療業・保健衛生の女性」は全ての種類の健康リスク比が高い

4. 考察

健康リスクは、業務に付随する身体活動の不足、建設需要の高まりによる過重労働、夜間勤務等による生活リズムの乱れ、の影響が考えられる。業種と性別を踏まえた保健指導の重要性が示唆された。